豊中でも…聖域化の同和行政

蛍池北駐車場管理ー市は駐車場の廃止

大阪市の飛鳥会や旧芦原病院など乱脈な同和行政の問題が報道されています。同和問題のマイナス点は報道されないという「同和タブー」が打ち破られようとしています。

全教豊中は毎年、市教委との交渉で、豊中における同和行政や同和教育の問題点を指摘してきました。しかし、市教委の姿勢は、一貫して「今も、部落差別はある。差別のある限り、同和教育・人権教育はすすめていく」というものです。

私たちは特別な同和行政は必要ない。部落問題学習をいまだにすべての学校ですすめさせようとする同和・人権教育はまちがっていると考えます。

今、報道されている大阪市の同和行政の問題は、私たちの豊中ではどうなっているのでしょうか。

7月の豊中市の臨時議会で同和対策のいっかんとしてつくられた蛍池北駐車場が非常にずさんな使われ方をしている問題が明らかになりました。

蛍池北駐車場問題

蛍池北駐車場は同和地域の自動車保管場所が困難な生業者などを対象とする駐車場として、85年に843㎡を2億4千4百万円で購入し整備しました。市同和促進協議会に16年間無償で貸し出し、駐車場代金は無料でしたが、国の同和対策の特別措置法がなくなった02年からは有料で、現在は700円となっています。

しかし市はその管理を、飛鳥会のように、当初は「市同和促進協議会」、その後名称変更した「とよなか人権文化まちづくり協会」にすべてを任せてきました。

駐車場代金なども「人権まちづくり協会」に納めることになっており、市は、年度初めと年度末に報告をもらい、それにもとづいて駐車場代金を受け取るしくみでした。

◆議会で不透明さが指摘

今回の市議会で、市に報告されていない車が6台も止まっていることが指摘されました。このような車の駐車場代金は誰が受け取っているのか。また、ナンバープレートのない車、物置になっている車、プレハブまで勝手におかれていることが明らかになりました。

市は「入り口の自動開閉装置の不具合」で「無断駐車する車もある」と理由にならない理由で真相を明らかにすることをしません。しかし、「既に大半は移動させ」「残りも撤去させる」「管理の徹底を指導する」と答弁しました。そして、結局「駐車場の廃止」を約束しました。

府学力テスト問題でも

5月に実施された大阪府学力テスト。旧同和地区に居住する子どものデータを本人・保護者の知らないままに市は府に提出することにしています。市の情報公開・個人情報保護運営委員会においても、委員の中から、疑問・問題ありの声が出されたものの、「府下でストップしているのは豊中市ともう一市だけ。」という、最後は人権教育企画課のやらなくてはいけないのコメントですすめられました。

こんなところでも、無理が押し通されています。

豊中市のプールは不備なし

プールの事故を受けて、全国各地のプールで、給排水口の不備が見つかっています。

8月9日に施設課に問い合わせたところ、新聞報道されている中に、豊中の学校プールはふくまれていないとのことです。

今年、新採用のあなた、「先生」と呼ばれることに慣れましたか。学校での「センセイ」には格別の響きがあります。子供はもとより、親、先輩同僚、校長、時には教育長までがあなたを「センセイ」と呼びます。昨日まで普通の青年学生がいきなり「先生」です。この先生に対し、世間は昔から最大級の信頼と敬意を寄せてきました。

私は退職して十年たちますが、かつての教え子や父母に今も「先生」と呼ばれ、ドキッとします。なぜでしょう。それは、「先生」には崇高な使命が託されているからではないでしょうか。

教育基本法では「教員」と呼びますし、学校教育法では「教諭」と称します。体育科の準備室はなぜか、「教官」室とも呼びます。ひっくるめると「教師」でしょうか。が、僧侶を「お坊さま」と言うように、あなたは「先生」であっていただきたいと思うのです。

見出しのことわざの「泣く子」は体と心の痛みをストレートに訴えて泣きます。この真実の叫びは誰にもとめられない。先生には正に子供や親に代わってこの「泣く子」になる意志と力を鍛えていただきたい。

一方、地頭（権力者）はすべて権力で処理します。たとえば、教育委員会の言う教員への「指導」、これは説得と納得ではなく有無を言わさぬ文書命令です。学校現場でこの地頭の立場に最も近いのが管理職です。ですから、子供も親も管理職を校長先生、教頭先生と「先生」をつけて呼び「泣く子」の立場に立ってほしいと願うのでしょう。

現場には勇気と行動力にあふれた青年先生、経験豊かな優しい中高年先生ともに必要です。そのパワーが集まれば、確かな学校教育力になります。「泣く子」で現場をいっぱいにしましょう。そして、こんなことわざに変えましょう。

「泣く子には地頭も勝てぬ」と。

元四・一・十・二中勤務。
国語科
著書に『胸の火打ち』『冬萌え』

今年新たに採用された皆さんへ「泣く子と地頭には勝てぬ」ン？

井実充成（退職教職員）

全教
№372
2006年8月21日
とよなか
全教豊中教職員組合
〒561―0874　豊中市長興寺南3－5－2
TEL（06）6865－3190　FAX（06）6865-3191
Eメール　zenkyo-toyonaka@tcct.zaq.ne.jp
HP　http://www.tcct.zaq.ne.jp/zenkyo-toyonaka/